

新型コロナワクチンの定期接種がスタート…自己負担の費用は？

2024/9/25 日刊ゲンダイ 荒川隆之薬剤師



定期接種が始まるがー

10月1日から自治体による新型コロナワクチンの定期接種が始まります。定期接種の対象者は、65歳以上の高齢者や重い基礎疾患を持つ60～64歳の人になります。接種費用の一部は国が市町村に助成し、自己負担額は最大7000円となりますが、3000円台としている市町村が多いようです。

ちなみに筆者が居住している広島市は3200円となる見込みです。この自己負担額は市町村により異なりますので、居住の市町村にお問い合わせいただきたいと思います。

一方、対象外の人には任意接種となり、原則全額自己負担となります。費用は医療機関がそれぞれ決めることになるため、病院

やクリニックによって異なります。筆者が複数の医療機関に聞き取りを行ったところ、1万5000円前後とされる施設が多いようです。

他疾病ワクチンとの接種間隔については、インフルエンザの予防接種は同時接種可能で、その他の予防接種との間隔は「13日以上あけること」とされていました。しかし、厚労省は「新型コロナワクチン接種体制確保事業に係る自治体向け説明会」において、4月以降は定期接種実施要領の規定通り、「注射生ワクチン以外のワクチンにおいては接種間隔を定めず、医師がとくに必要と認めた場合は同時接種を行うことが可能」としています。この方針は、諸外国における新型コロナワクチンと他疾病ワクチンとの同時接種を可能とする状況も参考にされています。

このほか、季節性インフルエンザと新型コロナウイルスの両方を予防する混合ワクチンの開発も進んでいて、各社とも臨床試験を行っています。混合ワクチンは、冬季に流行しやすい2種類の感染症の予防が1度の接種で済むため、接種希望者や医療従事者の負担軽減にもつながると考えられます。

最新ワクチンでなければコロナ重症化は予防できない？ 米国医師会の内科専門誌に論文

2024/08/25 日刊ゲンダイ青島周一勤務薬剤師／「薬剤師のジャーナルクラブ」共同主宰
新型コロナウイルスは世界各地で独自の変異を繰り返した結果、さまざまな変異株が報告されています。2023年から24年の初頭にかけて、同ウイルスの主流株はオミクロン変異株の派生型であるXBB系統でした。そのため、23年秋冬の接種において用いられた新型コロナウイルスワクチンも、XBB.1系統に対応していません。

一方、XBB対応ワクチンの有効性を検討した質の高い研究データは限られており、従来のウイルス株に対応したワクチンと比べて優れた予防効果を期待できるのかについて、議論の余地も残されていました。そのような中、新型コロナウイルス感染症による入院リスクに対するXBBワクチンの効果を検討した研究論文が、米国医師会の内科専門誌に、24年

6月24日付で掲載されました。

米国で行われたこの研究では、新型コロナウイルスの検査で陽性を認めた入院患者 2854人と、検査で陰性だったものの、咳や発熱、咽頭痛など、呼吸器感染症の症状で入院した 1万5345人が対象となりました。研究参加者に対して、新型コロナウイルスワクチンの接種状況を調査し、入院リスクとの関連性が検討されています。なお、研究結果に影響を与え得る年齢や性別、治療中の病気の有無などの因子について、統計的な補正が行われています。

その結果、XBB ワクチンを接種していた人では、同ワクチンを接種していない場合と比較して新型コロナウイルス感染症による入院リスクが 62%、統計学的にも有意に低下しました。一方、従来のウイルス株対応ワクチンについては、過去の接種回数に関係なく入院リスクの低下は認められませんでした。論文著者らは「新しい流行株に対応したワクチン接種の推奨を支持する結果である」と考察しています。